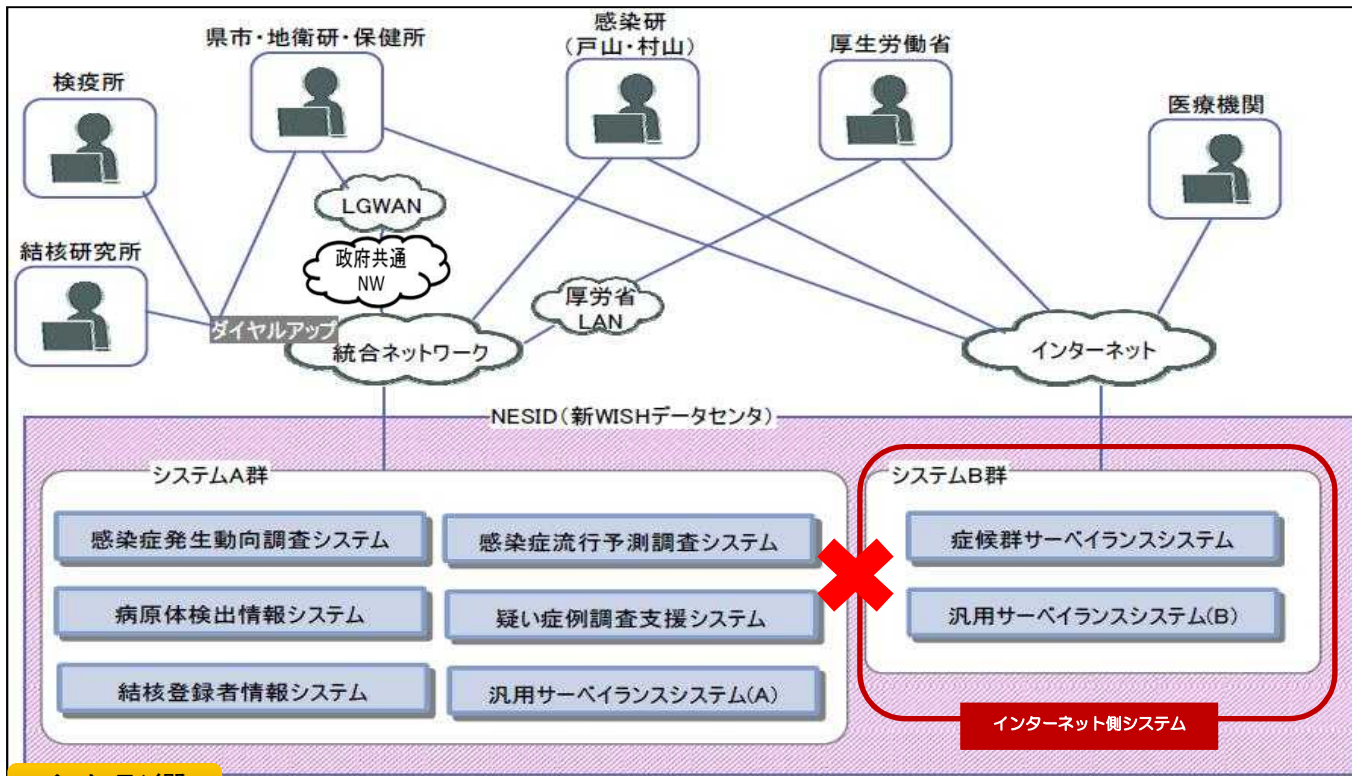


NESIDのシステム上の安全性を確認するため、6月10日に、A群とB群を接続する回線の切り離しを実施。システムの安全性と業務運用への影響を踏まえ、適切に対応する。



【A群】

- 感染症発生動向調査等を行うメインシステムであり、感染症法に基づく届出等に含まれる患者の氏名・生年月日・住所等の情報を保有。
- インターネットには接続されておらず、公的機関のみが利用し、IDやパスワードによりアクセスが制限。

【B群】

- インターネットに接続されており、病原体の動向やインフルエンザの流行レベルマップ等の情報を国民向けに公表。
- 疑似症患者の発生状況を迅速に把握するため、定点医療機関が直接システムに件数等の情報を入力。

※A群とB群はNESID内部で接続されており、フィルタリングにより、必要な情報のみがA群からB群へ一方的に日々転送される。

主な影響

① 症候群サーベイランスシステムの運用

感染症法第14条に基づく疑似症の報告は、定点医療機関が当該システムへ直接入力することにより行っている。A群とマスタデータを連携しているため、ユーザーの変更や新規利用等が不可。

② インフルエンザ流行レベルマップの公開

感染研HPにて公開しているレベルマップの情報更新が不可。(※公開用データは、A群で作成され、B群に転送)

③ 病原体情報等の帳票の公開

感染研HPにて公開している病原体情報等の情報更新が不可。(※公開用データは、A群で作成され、B群に転送)

④ B群システムに対する運用管理

A群とB群との接続を通じて行われていた必要な運用管理が不可。

※汎用サーベイランスシステム(B)は、現在運用していない。